



ハリィ..「田植えって、大変だね！」

台詞.. ドイツから来たハリネズミのハリィが、汗をかきながら言いました。

シボラン..「うん。ひとつひとつ手で植えるんだよ」

台詞.. シボランが他の動物たちに苗の植え方を教えています。

モール..「ランランラン♪ 大変だけど、

みんなでやれば楽しいね〜！」

台詞.. インドから来たクジャクのモールが、歌いながら言いました。

ゾウママ..「……それにしても、

タツクは何をしてるのかしら？ 遅いわねえ」

台詞.. ケニアから来たゾウのゾウママが、心配そうに言いました。どうやら、タヌキのタツクがまだ来てないようです。

■読みながら②ページをゆつくりと **A** まで引く

タツク..「みんなあー、お待ちせ！」

台詞.. 田植え機を押しながら、

タヌキのタツクがやって来ました。

タツク..「これを使えば、田植えなんて、アツという間だよ」

台詞.. タツクが日本から持ってきた田植え機に、動物たちは興味津々です。

■②ページの残りを全部引く

【上演するにあたって】

■物語の舞台は、インドネシア・ジャワ島の村。雨期の設定。

■楽しそうに。



■楽しそうに



シボラン：「わあ。とっても楽チンだねっ」

台詞：シボランがタツクの田植え機を借りて、
苗を植えています。



タツク：「エッヘン！これはね、今日のために僕がカイゾ
ウした、世界にひとつだけの田植え機なんだ」

台詞：タツクはとっても得意げですが……、

■ちよつと不穏な感じで

台詞：ボン、ボン、ボン、ボン。

田植え機から、何だかおかしな音が聞こえます。



タツク：「あれれ？どうしたのかな？？」

台詞：ボボボボボボ……

■ざつと③ページをめくる



■勢いよく、驚かせるように言う

台詞.. ボンツツツ!!

大きな音を立てて、田植え機が田んぼの外に飛び出してしまいました!



シボラン.. 「わわわわっ!?!」

台詞.. シボランも一緒に引っ張られて飛び出します。



みんな.. 「大変だっ!!」

早くシボランを助けなきゃ!」

台詞.. みんな大慌て。

田植え機はぐんぐん進んでいきます。

■読みながら④ページをゆっくりと

A

まで引く



シボラン.. 「わあ〜! 助けてえ〜!」

台詞.. 田植え機は、シボランを引っ張ったまま、すごいスピードで森の中へ入っていきます。



みんな.. 「おーい、待てえ〜!!」

台詞.. みんなで一生懸命シボランを追いかけますが、なかなか追いつきません。

■読みながら④ページをゆっくり全部引く



シボラン：「いったいどこまで行くんだよおおお！！」

台詞：シボランが泣きそうな声で叫びます。

台詞：いつもは静かな森が、今日は大騒ぎ！

なんだなんだ？！と、

森の生き物たちもびっくりしています。

■一息間をおく

台詞：そして、森を抜けると……、

■読みながら⑤ページをゆつくりとBまで引く

台詞：どつかあーん！！



みんな：「イタタタタ……」

台詞：動物たちは勢いよく何かにぶつかりました。

くるくるくると、シボランが目を回しています。



タック：「シボラン、大丈夫？」

台詞：タックが心配そうに言いました。



6



シボラン..「……ティダアパアパ！」

台詞..と、シボランが起き上がりながら言いました。

「ティダアパアパ」とは、インドネシア語で「大丈夫」とか「なんでもないよ」という意味です。
ティダアパアパ！ シボランは何とか無事だったようです。

台詞..でも、ほっとしたのもつかの間。

■⑥ページをめくりながら

台詞..動物たちの目に飛び込んできたのは、

Tidak apa-apa.

ティダ アパアパ
(ティダッ アパアパ)

インドネシア語会話で使用頻度の
高い言葉のひとつ。

■インドネシア語メモ



台詞.. 見上げるほど積み重なった、

たくさんの汚いゴミ！

田植え機と動物たちは、これにぶつかって止まったのでした。



ハリイ..「うわー、ゴミの山だあ！」

台詞.. ハリイがびっくりして叫びました。

お菓子の袋やペットボトルに空き缶やビン……、
おまけに川の中までたくさんのゴミが捨てられています。



モール..「みんなっ、大変だ！

ゴミだけじゃないぞ。森がなくなってる！」

台詞.. モールが青ざめた顔で言いました。

なんと、まわりの木が全部切り倒されているのです。

台詞.. いったいどうしてしまったのでしょうか？



シボラン：「インドネシアはね、今、どんどん森が切り開かれて、工場や家が変わっているんだ。キレイな環境が、いっぱい、いっぱい、こわされているんだよ。このままじゃ大変なことになってしまおうよ！」

【上演するにあたって】

台詞：悲しげな顔をしたシボランが、みんなに説明しました。どうやらインドネシアの森や川がピンチのようです。



台詞：シボランはさらに話を続けます。

シボラン：「それにね、このままあちこちにゴミが捨てられると、僕たちの遊ぶ場所もなくなっちゃうんだ。この前、友だちが川で遊んでいたら、ガラス瓶のゴミで足をケガしちゃったし……」

■一息間をおく



ゾウママ：「子どもたちの遊ぶ場所までなくなるなんて、ひどいわ」

台詞：ゾウママが思わずそう言いました。

■読みながら⑧ページをさっと全部引く

台詞：動物たちは、なんとかしなきゃ、という気持ちでいっぱいです。

■「なんとかしなきゃ」を強調して言う。



タック..「そうだ！ みんなでゴミを片づけようよ！」

台詞.. タックはそう言うと、こわれた田植え機をショッ
ピングカートのようなものに改造しました。



シボラン..「これならたくさんゴミを運べそうだねっ」

台詞.. シボランがうれしそうに言いました。
そして、



みんな..「えっほ、えっほ、えっほ！」

「よいしょ、よいしょ、よいしょ！」

台詞.. みんなでがんばってゴミを片づけることにしまし
た。今度は、タックの発明品がちゃんと役に立っ
ているようですね。



ハリィ..「でも、ゴミは片づければ何とかなるけど、
なくなった森はどうすればいいのかなあ？」

台詞.. ハリィが、ふと、そんなことをつぶやきました。

台詞.. そのときでした。



10

ウータ：「おおーい、みんな〜！」

いっしょに木を植えようよ！」



台詞：オランウータンのウータが、両手に苗木を抱えてやってきました。ウータは、シボランと同じくインドネシアの森で暮らす動物です。隣にいる鳥は、ジャクマタカ。ウータとたくさんの苗木を運んできました。

■読みながら⑩ページをゆっくり引く

動物たちは、ウータとジャクマタカの提案に大賛成です。

【上演するにあたって】

■「ジャクマタカ」はジャワ島固有種で、インドネシアを代表する鳥。しかし近年、森林破壊などの影響で生息数が激減しており、絶滅危惧種に指定されている。同様に、オランウータンも絶滅危惧種である。



シボラン..「みんなで木を植えよう！」

【上演するにあたって】

台詞..マホガニー、シナモン、パイナップル、アルバシア、
そしてチークの苗。

動物たちは、一本一本、心を込めて植えていきます。



シボラン..「豊かな森があ、もどりますように！」

■明るく元気に言う

台詞..シボランが大きな声で言いました。



みんな..「豊かな森があ、もどりますように！」

■明るく元気に言う

台詞..他の動物たちもシボランのマネをして言いました。
そして顔を見合わせ、いっしょに笑いました。

台詞..みんなの植えた木は、きっと元気に育って、楽しい森になるはずです。

インドネシアの森のおはなし



12

♣オイスカと「子供の森」計画

「子供の森」計画はオイスカが世界各地で推進している子どもたちの植林活動及び環境教育の支援プログラムです。1991 年より開始し、現在までに 33 の国と地域の 4,600 以上の学校が参加しています。オイスカは、国連経済社会理事会の諮問資格を持つ国際協力 NGO で、1961 年の設立以来、アジア太平洋地域の開発途上国を中心として農林業開発協力、環境保全活動、人材育成を推進しています。
<http://www.oisca.org>

♣動物かんきょう会議とは

世界のさまざまな地域から集まった動物たちが、身近な「かんきょう問題」をテーマに会議をくりひろげるお話です。子どもたちが「環境問題と異文化に興味をもち、自ら考え、行動する人間になってほしい」との願いをこめて 1997 年にはじまったプロジェクトです。2012 年には世界の 12 才同士が学び合う「せかい・動物かんきょう会議」がスタート。絵本とアニメーション（NHK 教育 TV で放映）があります。
<http://animalconference.com>



ウータ：「インドネシアは農業が盛んな国なんだ。森が元気になって、ゴミも捨てられなければ、川や海も元気になるんだ。そうすれば、森でも、田んぼでも、畑でも、きつとおいしい食べ物が育つはずだよお」

台詞：ウータがみんなに言いました。



シボラン：「今日植えたお米も、おいしく育つといいなあ」

台詞：シボランが言いました。



みんな：「インドネシアのお米はどんな味かなあ？」

「楽しみだ〜！」

台詞：と、みんなでワイワイガヤガヤ。

■一息間をおく

台詞：さあ、次は動物たちにどんな旅が待っているのでしょうか。

■一息間をおく

台詞：おしまい

世界の森のおはなしシリーズ 「インドネシアの森のおはなし」

2014 年 3 月 発行（第 1 版） 12 場面

脚本 井内雅倫
絵 宮知和代とマリルウ
企画・監修 公益財団法人オイスカ 「子供の森」計画
協力 インドネシアの子どもたち
キャラクター シボラン／モール ©OISCA/NURUE
ハリィ／タック／ゾウママ／ウータ ©NURUE
制作協力 「動物かんきょう会議」プロジェクト
© 株式会社ヌールエ デザイン総合研究所

発行 公益財団法人オイスカ
〒168-0063 東京都杉並区和泉 2-17-5
TEL：03-3322-5161（代表）
<http://www.oisca.org/>



インドネシアの 森のおはなし

作 公益財団法人オイスカ

1



シボラン：「スラマッシアン！」

台詞：カブトムシのシボランが、大きな声で言いました。
「スラマッシアン」とは、

インドネシア語で「こんにちは」という意味です。
さあ、みんなもシボランに挨拶してみましょう。

■この（間）で、子どもたちにも

インドネシア語の挨拶を言ってもらおう。

「せーの」で元気よく、「スラマシアン」

■インドネシア語で

「こんにちは」

Selamat siang.

スラマ シアン
(スラマッシアン)

* siang は「昼」の意味

台詞：ここはインドネシア、シボランのふるさと。

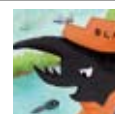
美しい棚田（たなだ）が広がっています。

棚田（たなだ）とは、斜めになった土地につくられた田んぼのことです。まるで階段みたいに見えますね。

■①ページをめくりながら

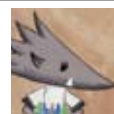
今日は、他の国から来た動物たちと田植えをしようです。

【上演するにあたって】
キャラクターの性格と口調



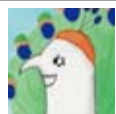
シボラン（少年）

インドネシアのカブトムシの少年。ヤンチャで好奇心旺盛。活発で元気。



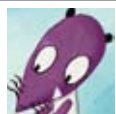
ハリイ（男）

ドイツのハリネズミの青年。自然を愛する。理路整然としたしっかり者。



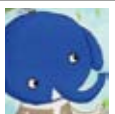
モール（男）

インドのクジャクの青年。踊りに全てをささげる優雅で少し風変わり。



タック（男）

日本のタヌキの青年。まじめで何でも一生懸命。少し高めの声で元気にテンポよく。



ゾウママ（女）

ケニアのゾウの中年女性。おおらかで陽気。ゆっくりと歌うような口調で。



ウータ（男）

インドネシアのオランウータンの中年男性。おっとりとした知識豊富な生物博士。のんびりと少し間のびしたような太い声で。